

互いの多様性を認め合い、共感的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成

◎ 山蔭 理恵, 大瀧 航, 芳門 淳一

1 英語科で育成を目指す資質・能力と、その育成によって発揮を期待する「人間の強み」のイメージ

豊かな学びの場・環境（土）で適切な指導・支援（水）を行うことで、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等（幹）が一体的に育成される。その過程で外国語を用いることへの自信や他者配慮の心、感性が徐々に養われ、学びに向かう力、人間性等（根）も育成される。こうして人間（木）は、幹や根が太く逞しくしなやかに成長を続けるほどに、人間の強み（葉）をより繁茂（発揮）させ、**Society5.0（予測困難な社会）**を生き抜く人間（**大木**）へと成長する。そのような人間は、社会や時代の変化をも肯定的に受容し、柔軟に対応しながら、よりよい社会を創る主体者となるであろう。

発揮を期待する「人間の強み」

互いの多様性を認め合い、
共感的にコミュニケーションを図ること

人間の強み

思考力等

コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、言葉の曖昧さに耐えながら、習得した知識・技能を活用して、外国語を用いて柔軟に自分の考えを伝え合う力。

（生きて働く）
知識及び技能

（未知の状況にも対応できる）
思考力、判断力、表現力等

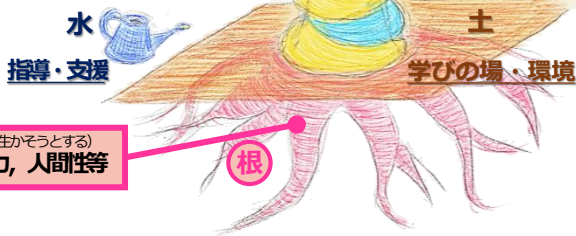
協調性等

相手を尊重し、傾聴や考えの深化・再構築をしながら、外国語を用いて双方向のコミュニケーションを図ろうとする態度。

主体性等

多様な話題に興味・関心をもち、自らの感性を磨きながら、外国語を用いて豊かにコミュニケーションを図ろうとする態度。

（学びを人生や社会に生かそうとする）
学びに向かう力、人間性等



2 教科研究の視点

（1）外国語科固有の「見方・考え方」を働かせる「真正の学び」の場の設定

思考力等

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え（＝外国のことや文化の理解、相手への配慮）コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること（＝適切な言語材料の活用、情報の精査、課題発見と解決、思考力の発揮）

見方・考え方を働かせる

見方・考え方がより豊かなになる

英語科における真正の学び

真に思考力、判断力、表現力を育成するような言語活動*1
（＝目的や場面、状況等を適切に設定した対話的な言語活動）
社会や世界に目を向け「ホンモノ」に触れる学び（＝豊かな題材）

*1「言語活動」

- 実際に外国語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う
- × 言語材料を理解したり練習したりすることに終始する

手立て1

複合シラバスによるカリキュラムデザイン

- ◆年間指導計画の吟味：教科書・“Bridge”の題材配列分析と目的に応じた指導順序の変更や複数単元を繋ぐユニットの作成
- ◆年間評価計画の検討：時期・回数の適正化と質の向上（リフォランス評価）
- ◆小中連携：小学校教科書・教材の分析、実態把握、附属小との交流

手立て2

「ホンモノ」題材の活用

- ◆コミュニケーションを図りたくなるような題材選定と場面等の設定
その題材を通して行う生きた対話、スピーチ、討論等の言語活動
- ◆（学級、学年を超えた）考えや気持ちの交流、先輩の映像、作品集
- ◆名スピーチ、音楽、映画、世界の諸問題等を通じた社会との繋がり

（2）英語科における主体的・対話的で深い学び等による「学びの自覚化」

協調性等

主体性等

手立て3

AARサイクルで学びを共有する単元シート

- ◆Anticipation(見通し)→Action(行動)→Reflection(振り返り)のAARサイクル(*OECD Learning Compass 2030参照)で学びの価値や自己の成長を実感させる。
- ◆ソフト面(=情報、内容)、ハード面(=情報技術、言語)の学びの蓄積

手立て4

生徒に思考を促すフィードバック

- ◆添削記号を用いた「書くこと」の指導：ライティングノートの活用
- ◆「話すこと[やり取り]」の可視化と即時フィードバック：ICT機器やアプリケーションを活用した評価の蓄積と共有
自他の質的変容をモニタリングさせ、メタ認知能力を高める。

（3）英語科における情報・情報技術の効果的な活用

情報活用能力*2

*2「情報活用能力」

「言語能力」や「問題発見・解決能力」と並んで、教科横断的に育む「学習の基盤となる資質・能力」

英語科における情報活用能力

コミュニケーションに必要な情報を抽出し、その情報を整理・分析・再構築しながら、外国語を用いて自分の考えをより効果的に伝える力。

→Society5.0では、情報技術(AI、ロボット、IoTなどの)の発達により、人間がもつ情報だけでなくビッグデータも含めた膨大な情報から、コミュニケーションを行う上でどの情報(コミュニケーションの内容=ソフト面)が必要かを主体的に判断し、相手(=情報の受け手)の状況に応じて、その情報を効果的に発信する情報技術(コミュニケーションを行うために使用する言語=ハード面)を使いこなす力が必要である。

手立て5

探究的な学習におけるソフト面・ハード面の吟味 ※ソフト面=情報、ハード面=情報技術

- ◆英語科における「探究のサイクル」*に則った授業づくり
- ①目的・場面・状況の理解 →何のために、誰と、どのような状況でコミュニケーションを行うか理解する
- ②必要な言語活動の実施 →インタビューやアンケート、文献検索で必要な情報を収集する
- ③情報の整理・分析・再構築 →個々の情報の比較、分類、構造化等を行い情報を整理する
- ④まとめ・表現 →プレゼンテーションやポスターセッション、スピーチ、動画配信など
目的、場面、状況に沿って、効果的な発信を行う
- ⑤振り返り →ソフト面の広がりや深まり、ハード面のスキルアップについて学習を振り返る

*英語科における「探究のサイクル」

